

## 地理・歴史

- 位置  
カリマンタン島の北部、マレーシアの2州と国境を接する。  
ヌヌカン島の北東に隣接するセバティック島は、島のほぼ中央にマレーシア(サバ州)との国境線が引かれている。
- 面積 約75,468 km<sup>2</sup>  
(全国の約3.9%)
- 州都 タンジュン・セロール(ブルンガン県)
- 人口 72万人 (2022年)
- 地方自治体  
1市4県 (タラカン市、ブルンガン県、マリナウ県、ヌヌカン県、タナ・ティドウン県)
- 種族  
ジャワ(40%)、ブギス、ダヤック、バンジャル、ブルンガン、ティドウン、クタイなど
- 宗教 (2020年)  
イスラム教 73.1%、プロテスタント 20.2%、カトリック 6.1%、仏教0.6%、ヒンドゥー教 0.1%
- 時間帯  
日本時間 -1時間(インドネシア中部時間)

- 2012年11月16日、東カリマンタン州からの分離が決まり、2013年4月22日、インドネシアの34番目の州として新設された。
- 現在の北カリマンタン州となっている地域は、18世紀に栄えたブルンガン王国の旧領地に該当する地域で、1853年に蘭領東インド領となるまでは、スールー王国従属地であった。



## 行政・政治

- 北カリマンタン州  
知事 : ザイナル・アリフィン・パリワン(前北カリマンタン州副警察本部長)  
副知事: ヤンセン・ティバ・パダン(元マリナウ県知事)
- 海軍第十三主要基地隊司令部(東・北・南カリマンタン所掌)が北カリマンタン州タラカン市マンブルガン郡に所在。

- 州議会(全35議席)(2019-2024)  
※括弧内は2024年9月に就任する議員の議席

政党名	議席数
闘争民主党(PDIP)	5 (3)
グリンドラ党	5 (6)
ハヌラ党	5 (3)
ゴルカル党	4 (6)
民主党(PD)	4 (6)
福祉正義党(PKS)	3 (4)
ナスデム党	2 (2)
民族覚醒党(PKB)	2 (2)
国民信託党(PAN)	2 (2)
開発連合党(PPP)	1 (1)
月星党(PBB)	1 (0)
ブリンド党	1 (0)

## 経済

- 州内名目GDP 147.2兆ルピア (州統計局)  
一人当たり名目GDP 201百万ルピア (全国3位/2023年/中央統計局)

- 経済成長率(対前年比)

	2023	2022	2021	2020	2019	2018
全国	5.05	5.31	3.70	-2.07	5.02	5.17
北カリマンタン	4.94	5.32	3.99	-1.09	6.89	6.04

- 主要産品: 海産物、ヤシ油 等
- 貿易(2023年/州統計局)  
輸出 28.6億ドル ((1)インド(28.9%)、(2)中国(21.6%)、(3)フィリピン(10.9%))  
輸入 6.8億ドル ((1)シンガポール(71.8%)、(2)中国(14.0%)、(3)ベトナム(5.5%))

- 日本語教育機関 タラカン第1国立高校、タラカン第2国立高校
- 日本語学習者 482人(2021年国際交流基金調査)
- 元日本留学生 3名(2023年時点)
- 州内の国立大学として、国立ボルネオ大学がタラカン市内に所在。

## 日本との関係

- タラカン市内には戦前からの「日本人共同墓碑」がある(タラカン市が管理)(写真右)。
- 旧日本軍が蘭領インドネシアに初めて侵攻した土地(1942年1月)がタラカンである(その後、東カリマンタン州バリクパパンに向かった。)
- タラカン市内には、旧日本軍から支配権を奪った豪が建設したとされる建物(Rumah Bundar)が残っており、先の大戦の遺物などを保存する歴史博物館として観光スポットとされている。
- ヌヌカン県には、旧日本軍が駐留し飛行場を作ったこともあり、Sei Jepun(日本川)と呼ばれる川や、Sei Jepun通りやSei Jepun港などがある。



## 経済協力

- 草の根・人間の安全保障無償資金協力

「北カリマンタン州ブルンガン県における職業訓練高校兼卒業認定試験対策支援学校校舎建設計画(2019年)」

「北カリマンタン州マリナウ県イスラム小学校における図書室建設及び教室備品整備計画(2015年)」



「ブルンガン県における職業訓練高校兼卒業認定試験対策支援学校校舎建設計画」オンライン完成式典



「マリナウ県イスラム小学校における図書室建設及び教室備品整備計画」完成式典